



お客様の働く環境を支える 地域密着の店舗も展開

(株)文盛堂 代表取締役 尾作 太一 氏

文盛堂（中央区千代田）は1957年に事務用品・文具・書籍などの販売店として開業しました。個人向けの文具店舗販売を続けながら、法人向けのオフィス家具・機器販売やシステム提案、サイバーセキュリティ対策まで幅広く手がけています。同社は地域密着の店舗経営も重視しており、文具の体験型イベントなどを通じて市民に親しまれる店づくりを目指しています。今回は、今年度から当所青年部会長にも就任した尾作太一社長に今後の経営ビジョンなどを聞きました。

■社長就任から間もなく5年となります。

「父から経営を引き継いだ2021年8月当時は、コロナ禍の真っただ中でした。企業ではリモートワークが広がり、デジタル化が加速したこ

とで、当社の主力だったオフィス家具などの売れ行きが落ち込み、危機的な状況に陥りました。そこで、デジタル化と働き方の変化に合わせ、取り扱い商材の拡大に着手しました。近年では、需要が高まっている

サイバーセキュリティ商材の販売にも力を入れています」

■地域密着の文房具店からスタートし、法人向けIT支援まで事業領域を広げた経緯を教えてください。

「当初は“IT支援”というほど大掛かりなものではなく、Zoomのライセンスやノートパソコンの販売から始めました。そこから徐々に自宅から会社の基幹システムにアクセスできる仕組みの提案や、Web会議システムに必要な機器の販売へと領域を広げました。現在はセキュリティ



1 同社キャラクター「ぶんちゃん」が出迎える店舗入り口



3 店舗内の「文具のなる木」。根元にはこどもたちが折り紙やお絵かきを楽しめるスペースが広がる



2 フリーアドレスを採用した、社長の設計による事務所



4 第29代青年部会長に就任。令和8年度スローガンは「一味同心〜次代へススめ！時代をツクレ！〜」

商材の販売を新たな柱に据え、コンピューターウイルス対策の入り口となるUTM(統合脅威管理)製品や、社内からの情報流出を防ぐ出口対策の『DDHBOX』など、高度なセキュリティ機器も扱っています。コロナ禍が明け、オフィスに働く人々が戻り始めたことを受けて、物理的なオフィス環境の再構築も組み合わせて提案しています」

■時代の変化に対応できた秘訣と、今後の経営ビジョンをお聞かせください。

「対応がスムーズに進んだ背景には、先々代の頃から御用聞きのように法人顧客を訪問してきた伝統があります。かつて高級品だった赤鉛筆

の販売に始まり、電卓、ファクシミリ、コピー機、IT機器へと、その時代ごとに『お客様が働く環境を支える道具』を提供し続けてきた延長線上に、現在の姿があります。当社はもはや単なる物品販売業ではなく、オフィスの困りごとをトータルで解決する提案型営業へと姿を変えています」

「今後は遠方からでも訪れたいような、文房具を体験できる店舗を目指したいと考えています。具体的には、鉛筆や消しゴムなど特定の文房具を深く体験できる専門フロアの設置を検討中です。こうした空間を相模原市内につくことで、市外からも多くの人を呼び込み、地域全体を盛り上げていければ理想的です」

■当所青年部の新会長に就任されました。抱負をお聞かせください。

「従来の組織や地域の枠組みを超え、オール相模原、で街の魅力を最大化させていきたいです。誰もが自信を持って語れる『相模原といえばこれだ』というブランドを、皆でつくり上げることを目指しています。28年に開催予定の商工会議所青年部の関東ブロック大会を一つの節目に、街全体の魅力を底上げしていきたいですね」

(株)文盛堂

〒252-0237
相模原市中央区千代田6-1-18
TEL : 042-752-2303
<http://www.bunseido.net/>